

令和6年度  
(2024年度)

# 業 務 年 報

令和7年5月

徳島県立農林水産総合技術支援センター

畜産研究課

# 目 次

農林水産総合技術支援センター畜産研究課組織図	1
I 業務の概要	
肉牛・酪農担当	2
養豚担当	5
養鶏担当	8
飼料担当	10
共同研究	13
II 受賞・発表・その他	
1 受賞	14
2 学会等研究報告	14
3 発行資料	14
4 雑誌等掲載	15
5 新聞掲載・テレビ出演等	15
6 講演等	15
7 セミナー等開催実績	15
8 派遣研修等	15
9 研修生の受け入れ	15
10 施設見学者数	15
11 その他（特許、種苗登録申請等）	15

農林水産総合技術支援センター畜産研究課組織図

(R6.4.1現在)

所在 〒771-1310 徳島県板野郡上板町泉谷字砂コウ I

畜産研究課

TEL 088-694-2023

- 総務担当 予算の執行、財産の管理
- 管理担当 家畜の飼養管理  
ほ場及び環境保全施設の管理など
- 肉牛・酪農担当 肉用牛及び乳牛に関する研究  
受精卵の生産・供給・移植技術に関する研究など
- 養豚担当 「阿波とん豚」の維持及び改良、開放型育種による  
豚の改良、豚飼養管理技術に関する研究など
- 養鶏担当 「阿波尾鶏」の安定生産に関する研究  
鶏飼養管理技術に関する研究など
- 飼料担当 飼料作物の栽培、調製、貯蔵技術に関する研究  
家畜ふん尿処理、環境改善技術に関する研究など

# I 業務の概要

## 肉牛・酪農担当

(肉牛部門)

試 験 課 題	概要書の 有 無	期 間	予算区分
<b>1 飼養管理に関する研究</b>			
1) 哺乳ロボットを活用した哺育牛育成管理技術の確立	有	R4～R6	県 単
2) 種雄牛候補牛の「おいしさ」に関する特性分析試験	有	R4～R6	県 単
3) 「脂の旨さ」を引き出す和牛肥育技術の開発	有	R5～R7	県 単
4) 地域ブランドを活用した地域資源活用飼養技術の確立 (和牛繁殖への未利用資源)	有	R6～R8	交付金
<b>2 繁殖技術に関する研究</b>			
1) 種雄牛による県産和牛改良促進に向けた現地調査試験	有	R5～6	県 単
<b>3 事業</b>			
1) 県有種雄牛造成体制整備事業	有	R6	交付金
2) 受精卵供給センター事業	有	H6～	県 単

(酪農部門)

試 験 課 題	概要書の 有 無	期 間	予算区分
<b>1 飼養管理に関する研究</b>			
1) 乳牛の疾病予防及び繁殖性向上に有効な外貌変化モニタリング技術の開発	有	R6～R8	交付金
<b>2 事業</b>			
1) 中規模酪農経営改善推進事業	有	H13～	県 単
2) 家畜改良総合対策推進事業	有	H20～	県 単

## (肉牛部門)

### 1 飼養管理に関する研究

1) 哺乳ロボットを活用した哺育牛育成管理技術の確立

当課で出生した黒毛和種哺育牛について、当課慣行管理の「対照区」、代用乳を少量多回給餌し、固形飼料の摂取増を狙いとする「90日多回区」、代用乳を増給する一方、早期離乳による発育の影響を評価する「60日短縮区」に振り分けた。

90日齢までの日増体は、対照区0.74、90日多回区0.78、60日短縮区0.86で、60日短縮区は対照区より1割程度高かった。

哺育期の発育成績では、300日齢まで発育成績を追跡したところ60日短縮区で体高が高く推移する傾向にあった。

2) 種雄牛候補牛の「おいしさ」に関する特性分析試験

県有種雄牛候補牛Aの産子牛肉6検体、候補牛Bの産子牛肉4検体について、食味に関連する成分の評価を実施した。

候補牛Aでは不飽和脂肪酸含量が高く、候補牛Bではうま味成分が強い傾向にあった。これらを味覚スコアとして数値化したところ、候補牛Aは香気と口溶けに優れ、候補牛Bはうま味、甘み、苦みが強く、味に深みがあることが示された。

3) 「脂の旨さ」を引き出す和牛肥育技術の開発

当課で繋養する黒毛和種肥育牛について、肥育中期から3ヶ月間、オレイン酸を高含有するルーメンバイパス性の脂肪酸カルシウム（脂肪酸Ca）150g/日を配合飼料給与時にトップドレスにより添加し、血液性状への影響を調査した。給与60日後に血中オレイン酸割合の増加が見られたが、現在も継続調査中である。

県産黒毛和牛枝肉について、食肉脂質測定装置を用いた脂肪酸組成の測定を行い、血統等による脂肪の質の違いを評価した。結果、県産和牛のオレイン酸含量は去勢よりも雌が有意に高く、血統では田尻系>気高系>藤良系の順に高かった。

4) 地域ブランドを活用した地域資源活用飼養技術の確立（和牛繁殖への未利用資源）

県内農家提供の規格外ニンジンについて周年利用を可能とするため、ウイスキー粕等の副資材と組み合わせサイレージ化を図った。

発酵品質を経時的に調査したところ、悪い発酵の指標となるVBNは検出されず、発酵品質指標のVスコアは調製9週間後でも99.8点と良好で会った。さらに、省力的にサイレージ化する手法を検討したところ、フレコンバッグに改修したニンジン残渣を、そのままロールペールサイレージ化するフレコンラップ法で良好な発酵品質を確認した。また、ニンジンサイレージへの牛の嗜好性は良好であった。

### 2 繁殖技術に関する研究

1) 種雄牛による県産和牛改良促進に向けた現地調査試験

当課で飼育する黒毛和種種雄牛候補牛「藍美津平号」の凍結精液を、県内5戸の肉牛農家へ配布し、黒毛和種繁殖牛へ交配した。出生した産子18頭について、発育に関連する能力の調査を行うとともに、ゲノミック評価を実施し、その遺伝的特性を調査した。

産子の在胎日数は288.2日、出生体重は雄33.2kg、雌33.5kgであった。日齢枝肉重量は、去勢0.569kg、雌0.512kgであり、雌が全国平均より小さい傾向にあった。

産子のゲノム育種価は、枝肉重量が-12.663kg、ロース芯面積が-1.117cm<sup>2</sup>、バラ厚が-0.054cm、皮下脂肪厚が-0.176cm、歩留基準値が0.153%、BMS No.が0.632、一価不飽和脂肪酸割合が0.083%、オレイン酸割合が0.068%であった。

### 3 事業

1) 県有種雄牛造成体制整備事業

徳島県独自の種雄牛造成に向け、種雄牛候補牛（以下、候補牛）の産肉能力検定の実施と、協力農家への候補牛精液の試験供給を行った。

選抜基準に満たなかった候補牛「幸美桜号」、  
「阿波幸久号」について、徳島県期間種雄牛選抜  
委員会に諮り淘汰とした。

「陽美号」では産子9頭の肥育成績を得るととも  
に、「剣桜号」の産子16頭を対象とし、産肉能力検  
定を開始した。

「陽美号」40本、「剣桜号」31本、「藍美津平  
号」15本の凍結精液を事業協力農家に試験供給し  
た。

## 2) 受精卵供給センター事業

当課繫養もしくは農家所有の優良和牛から採取  
した受精卵の安定供給を行うことで、県内和牛繁  
殖牛の能力改良肥育素牛の効率的増産を推進した。

当課繫養の黒毛和種雌牛のべ26頭及び農家所有  
のものべ15頭から採卵を実施し、和牛肥育素牛  
の増産並びに繁殖和牛の資質向上が図られた。

## (酪農部門)

### 1 飼養管理に関する研究

1) 乳牛の疾病予防及び繁殖性向上に有効な外貌  
変化モニタリング技術の開発

県内酪農家においてのべ168頭の血液検査及び牛  
体画像撮影を実施した。血液検査により牛の栄養  
状態を推定するとともに、牛体画像より斑紋の鮮  
明さを数値化し、両者の関連性を解析した。

先行研究と合わせた解析により、血中尿素窒素、  
血中カルシウム濃度、血中タンパク質、分娩後日  
数が牛体斑紋の鮮明さと相関があることが判明し  
た。

### 2 事業

#### 1) 中規模酪農経営改善推進事業

酪農経営及び家畜改良等に関係する牛群検定情  
報を分析し、指導及び試験研究に活用した。また、  
指導者等を対象とした研修会を開催し、経営の安  
定化に向け検定情報を効果的に活用する知識・技  
能の向上を図った。

#### 2) 家畜改良総合対策推進事業

農家が所有する高能力牛から採卵を実施し、遺  
伝的に優れた後継牛の安定生産を図ることにより、  
効率的な乳用牛の改良を促進した。

# I 業務の概要

## 養豚担当

試 験 課 題	概要書の 有 無	期 間	予算区分
<b>1 飼養管理に関する研究</b>			
1) 地域ブランドを活用した地域資源活用飼養技術の確立 (豚へのメカブ給与試験)	有	R6～R7	交付金
2) 低タンパク質飼料と消化性を高める資材を活用した環境負荷 型養豚技術の開発	有	R4～R6	交付金 (R6県単)
<b>2 育種技術に関する研究</b>			
1) 徳島県産豚肉の品質向上に関する実証試験	有	R5～R7	交付金 (R6以降県 単)
2) 抗病性による阿波とん豚の育成率向上試験	有	R6～R8	
<b>3 事業</b>			
1) 「阿波とん豚」増産・流通システム確立事業	無	H29～R6	交付金 (R2以降 交付金)
2) 阿波とん豚の維持に関する試験	無	H28～	県 単
3) 開放型育種による効率的な豚の改良技術に関する試験	無	R1～	県 単

## 1 飼養管理に関する研究

### 1) 地域ブランドを活用した地域資源活用飼養技術の確立（豚へのメカブ給与試験）

ワカメの収穫において不用となったメカブを豚に給与し、腸内細菌叢の適正化や耐ストレス性を高めることで繁殖成績や子豚の育成率等の生産性を向上させる技術を検討した。

令和6年度は、妊娠後期の繁殖母豚に乾燥メカブ粉末を1日当たり25g、50日間給与し、対照区と繁殖成績、糞便中の腸内細菌叢及び被毛中のコルチゾール（ストレスホルモン）濃度を比較した。繁殖成績は、両区に有意な差は認められなかった。腸内細菌叢は、メカブ区でフィブロボクター属菌の割合が増加していた。また、メカブ区は試験開始25日後の被毛中コルチゾール濃度増加量が有意に低かった。

### 2) 低タンパク質飼料と消化性を高める資材を活用した環境負荷低減型養豚技術の開発

豚の排泄物から発生する亜酸化窒素( $N_2O$ )には二酸化炭素の約300倍の温室効果作用があるが、飼料中の粗タンパク質配合割合を低下させることで一定の $N_2O$ 削減効果がある。しかしながら、低タンパク質飼料の給与は発育及び産肉性の低下を招くことから普及していないため、低タンパク質飼料を給与しても生産性に負の影響が生じない環境負荷低減型技術を検討した。令和6年度は、8週齢時から4週間、3種類の飼料（対照区：粗タンパク質(CP)含量17%、試験区A：CP含量13%の飼料にキシラナーゼ0.02%を添加、試験区B：試験区Aにプロテアーゼ0.1%を添加）で飼育し、平均体重と飼料要求率を比較した。

結果、平均体重は対照区、試験区B、試験区Aの順に大きく、飼料要求率も同順で低かった。また、1kgの増体に要するCP量は試験区Bが最も少なかった。

## 2 育種技術に関する研究

### 1) 徳島県産豚肉の品質向上に関する実証試験

豚肉は、肉色が淡く、ドリップが多く滲出する

PSE肉と呼ばれる異常肉の発生頻度が高く、特に高温飼養環境下では頻度が高くなることが課題となっており、「高温ストレス耐性のある豚群作出技術の開発」(R2～R4)に取組み、遺伝子型により肉質に差のある1塩基多型(SNP)を発見した。それらの情報を種畜選抜時の指標として用いた場合の改良効果を検証するため、実際に種畜を選抜、その産子の肉質評価を行った。

具体的には、令和5年度の成果で肉質との関連性が高いことが示唆された第15染色体上、PRKAG3遺伝子内の2個のSNPを対象に、令和6年度は新たに333頭の肉質を調査し、SNPの効果を推定した。また、上述のSNPを指標として、種豚を選抜し、その産子の能力から選定したSNPの改良指標マーカーとしての効果を検証した。結果、rs1108399077はデュロック及び雑種において遺伝子型によりドリップ量あるいは肉色に差が見られ( $p < 0.01$ 、 $p < 0.05$ )、Aを持つことにより、ドリップが少ない、肉色が濃くなることが示された。

### 2) 抗病性による阿波とん豚の育成率向上試験

阿波とん豚は一般的な品種より育成率が低く、ワクチンや抗生剤に要する費用や労力が農家の負担となるため、阿波とん豚の抗病性を改良する際の選抜指標となる遺伝子変異を調査した。

令和6年度は、阿波とん豚系統を対象として、呼吸器系疾病への抗病性と関連が示唆されている遺伝子変異4座位を解析するとともに、と畜時にマイコプラズマ性肺炎(MPS)による肺の病変割合を調査してスコア化し、遺伝子との関連性を解析した。

結果、第3染色体の遺伝子変異では保有する遺伝子によってMPSの発症率が有意に異なっていた( $p < 0.05$ )。また、第6染色体の遺伝子変異では、保有する遺伝子によってMPSによる肺の病変割合が異なる傾向があった( $p < 0.1$ )。よって2座位が阿波とん豚においてMPSへの抗病性を改良する際の種豚選抜の指標にできる可能性が示唆された。

## 3 事業

1)「阿波とん豚」増産・流通システム確立事業  
令和 2 年度までの研究成果である繁殖能力に関連した SNP マーカーを実際の育種改良に利用し、繁殖能力の高い遺伝子を持つ阿波とん豚種豚を生産農場へ供給することにより、阿波とん豚の増産体制の強化に取り組んだ。令和 6 年度は、阿波とん豚の子豚 328 頭(雄 158 頭、雌 170 頭)について、これまでの研究で繁殖能力との関連性が示唆された 3 個の SNP マーカーを対象に遺伝子型を判定した。

結果、繁殖性に関連する 3 個の SNP のうち、いずれかの SNP について優良な遺伝子型を持つ個体は 23 頭(雄 10 頭、雌 13 頭)存在した。そのうち、10 頭(雄 4 頭、雌 6 頭)を種豚として選抜し、そのうち 8 頭(雄 1 頭、雌 7 頭)を生産者へ譲渡した。

#### 2)阿波とん豚の維持に関する試験

第 6 及び第 15 染色体の特定領域を日本猪由来の染色体へと固定した個体の選抜、繁殖豚の繁殖能力及び兄妹あるいは産子を用いた肉質に関する能力の評価を行った。また、専用プログラムを用いた計画的な交配による近交係数上昇の制御、凍結精液の作成による阿波とん豚系統の安定的な維持を図った。令和 6 年度中に阿波とん豚系統の母豚のべ 53 回分娩し、429 頭の産子を生産した。1 母豚あたりの繁殖成績は、総産子数、生産子数、離乳数及び 3 週齢 1 腹体重はそれぞれ、9.7、8.1、7.1 及び 37.0kg であった。このうち 328 頭について尾より DNA を抽出精製し、DNA マーカーによる判定を行った。

結果、236 頭(雄 108 頭、雌 128 頭)が目的遺伝子型に固定されていた。そのうち、雄 1 頭、雌 7 頭を生産農場 2 戸に貸し付け、10 頭を自場更新(雄 4 頭、雌 6 頭)、150 頭を阿波とん豚の肉豚として出荷した。

#### 3)開放型育種による効率的な豚の改良技術に関する試験

雌系品種として広く利用されている大ヨークシャー、ランドレース及び雄系品種のデュロックについて、SNP 及び育種価による能力評価と選抜を

行い、効率的な種豚の改良技術の開発に取り組むとともに改良した種豚の普及を図った。

令和 6 年度中に母豚のべ 22 回分娩し、239 頭の子豚が生まれ、そのうち 8 頭(雄 2 頭、雌 6 頭)を後継豚として選抜するとともに、純粋種 9 頭及び交雑種雌 21 頭を 3 農場に譲渡した。繁殖成績は、W、L 及び D それぞれ、総産子数 11.6、12.6 及び 10.7、生産子数 10.9、11.8 及び 9.7 頭、3 週齢数 9.9、10.9 及び 7.6 頭、1 腹あたりの 3 週齢時総体重は 62.4、62.1 及び 42.0kg であった。

# I 業務の概要

試 験 課 題	概要書の 有 無	期 間	予算区分
<b>1 飼養管理等に関する研究</b> 1) 鶏舎の衛生環境を改善するAIロボットの開発	有	R5～R6	交付金
<b>2 生産性向上に関する研究</b> 1) プロイラーの産肉能力試験	有	S52～	県 単
<b>3 その他研究</b> 1) 阿波尾鶏の輸出を推進する肉用鶏食鳥処理における衛生管理技術の検討	有	R4～R6	県 単
<b>4 事業</b> 1) 阿波尾鶏安定生産のための阿波地鶏性能試験(第36世代)	有	H13～	県 単

## 1 飼養管理等に関する研究

1) 鶏舎の衛生環境を改善する AI ロボットの開発

紫外線 (UV) は、鶏の生産性に影響を及ぼす。また、UV は、殺菌効果による鶏舎内衛生環境の改善も期待される。そこで、床面に近い位置から UV 照射を行うことができる UV-LED 搭載自律走行型ロボットを開発し、1 週齢以降に週 3 回 (各 30 分間、計 450 分) の走行でブロイラーの生産性を向上させる可能性が確認された (令和 5 年度調査)。本試験は、殺菌効果向上のため、さらに走行頻度を増やし、4 週齢以降に週 5 回 (各 60 分間、計 840 分) 走行による鶏の育成成績に及ぼす影響を評価した。

試験区は、慣行区 (ロボット走行なし) と比較して、出荷 (6 週齢) 時育成成績のすべての項目が低くなり、鶏の生産性低下が確認された。このことから、ロボットの走行頻度は、ブロイラーの生産性向上のため、週 3 回程度が適していると評価された。

## 2 生産性向上に関する研究

1) ブロイラーの産肉能力試験

ブロイラーの改良動向を把握し、県内養鶏農家の経営安定技術に結びつける指針を得るため、主要銘柄について性能を調査した。育成成績は、6 週齢時の体重が雄平均 3,467g、雌平均 2,858g、飼料要求率が雄 1.35、雌 1.38 であった。また、産肉成績は、むね肉重量が雄 761.7g、雌 609.0g、もも肉重量が雄 673.8g、519.2g であった。

## 3 その他研究

1) 阿波尾鶏の輸出を推進する肉用鶏食鳥処理における衛生管理技術の検討

阿波尾鶏の輸出先の新規開拓において、食鳥処理工程における消毒剤 (食品添加物) の使用基準の相違により輸出困難な国・地域があるため、常用消毒剤 (次亜塩素酸ナトリウム (Na)) と異なる消毒剤 (過酢酸製剤) について、阿波尾鶏に対

する消毒効果および肉質に及ぼす影響を調査し、比較検討した。

阿波尾鶏を放血・脱羽後、次亜塩素酸 Na の 70ppm 溶液および過酢酸製剤の 50、60、70ppm 溶液に 40 分間氷水浸漬し、皮膚の細菌培養検査および色調検査に供した。一般性菌数および腸内細菌科菌群数 (EB) は、いずれの処理間も有意差がなかった。また、カンピロバクターおよびサルモネラは、全ての検体で検出限界未満であった。皮膚の色調は、各処理間において有意差がなかった。

過去の調査において、過酢酸製剤の 50ppm 溶液は、次亜塩素酸 Na の 70ppm 溶液と比較して、EB が有意に多かった。以上の結果から、阿波尾鶏の食鳥処理における過酢酸製剤の使用は、濃度 60ppm 以上が必要と推察された。

## 4 事業

1) 阿波尾鶏安定生産のための阿波地鶏性能試験 (第 36 世代)

阿波尾鶏の品質を維持し、県特産物として安定出荷していくため、原々種鶏の系統保存及び原種鶏供給を行った。また、父系種鶏としての阿波地鶏の能力を調査した結果、20 週齢の体重は雄 4,394 g、雌 3,385g、25 ~ 64 週齢の産卵率が 33.68 %、平均卵重が 54.21g、受精率 (34 週齢) が 90.5 %、初産日齢が 124 日齢であった。

# I 業務の概要

## 飼料担当

試 験 課 題	概要書の 有 無	期 間	予算区分
<b>1 飼料に関する研究</b>			
1) 飼料高騰対策に向けた粗飼料増産方法の検討	有	R4～R6	県 単
2) 子実とうもろこしの安定多収生産技術の開発	有	R4～R6	受 託
<b>2 畜産環境に関する研究</b>			
1) 畜舎汚水処理水の水質向上技術の開発	有	R1～R6	県 単
2) モミガラ長期保存実証	有	R5～R6	県 単
3) 鶏舎内外におけるクロバエ類の飛来状況調査	有	R6～R7	県 単
<b>3 事業</b>			
1) 自給飼料対策事業	有	H19～	県 単
2) 流通飼料対策推進事業	有	H19～	県 単
3) 畜産バイオマス利活用推進事業	有	H28～	県 単
4) 飼料作物優良品種選定調査	有	H22～	受 託

## 1 飼料に関する研究

1) 飼料高騰対策に向けた粗飼料増産方法の検討  
イタリアンライグラスの新たな品種「アキアオバ3」の3番草までの収量性を、収量が多いと言われている10月下旬播種で調査した。播種時期が10月下旬で、収穫適期と言われている出穂期に1番草から3番草を収穫した結果、「アキアオバ3」は、7月上旬でも3番草の収穫適期の出穂期であり、一定の収量が得られた。

2) 子実とうもろこしの安定多収生産技術の開発  
牛、豚、鶏の混合堆肥と化学肥料の使用割合別における子実とうもろこしの生育効果と、堆肥主体肥培管理による栽培が土壌に与える影響を調査。化学肥料と家畜ふん混合堆肥の施肥割合の違いが土壌や収量性に及ぼす影響を解明するため、化学肥料標準施肥区と肥料成分の堆肥代替区として、30%、50%、60%区をそれぞれ設けて栽培試験を行った。とうもろこしの子実収量（乾物）では、試験区において年次による違いは見られたが、全試験区において、研究目標である子実収量800kg/10aを確保することができた。

土壌成分では、堆肥代替施肥区において、リン酸、加里、石灰、苦土が増加傾向にあり、特に60%代替区で肥料成分の蓄積が進んでいる傾向があった。子実収量（乾物）においては、化学肥料標準施肥区と堆肥代替区の違いは確認できなかった。これは、全ての区で茎葉残渣を乾物量で毎年1t/10a以上圃場還元しており、この有機物の効果と考察する。

## 2 畜産環境に関する研究

1) 畜舎汚水処理水の水質向上技術の開発

強化される排水基準の規制値に対応するため、浄化槽に投入する前の高濃度汚水において、2種類（A 資材、B 資材）の凝集剤を活用して予め汚濁物質を除去し、浄化槽の負荷を低減する技術確立を行った。豚舎汚水において、BOD（生物化学的酸素要求量）低減を目的に凝集剤を使用し、B資材でBOD濃度1,000ppmの汚水1,000mlに対し

て0.1%使用すると、BOD濃度が55%低減することを確認した。

2) モミガラ長期保存実証

防水措置をとった資材4種類にモミガラを充填し、野外保存におけるモミガラの保存状態を調査した。結果、防水処理したモミガラは屋内保存と同等の水分であった。また、試験区すべてで大腸菌は検出されなかった。保存コストが、最も安価であったのは、内袋にビニールを用いたフレコンバック保存方法であり、ついで、フレコンバックにフレコンカバーを用いた保存方法であった。

3) 鶏舎内外におけるクロバエ類の飛来状況調査

県内養鶏場5戸におけるクロバエ類の飛来状況調査を粘着シートを用いて実施。4農場では、鶏舎と堆肥舎への飛来状況を、1農場では死鳥置場への飛来状況を調査、捕集されたクロバエ類については、胸部厚も計測した。結果、県内においても、鶏舎や堆肥舎へのクロバエ類の飛来が確認された。また、死鳥置場でのクロバエ類の捕集数が多く、鶏糞よりも死鳥を好む傾向も示唆された。

## 3 事業

1) 自給飼料対策事業

畜産農家が適切に飼料給与を行えるよう、自給飼料等の成分分析を実施し、自給粗飼料2検体・6分析項目の依頼があり、一般飼料成分や発酵品質等の分析を実施した。

2) 流通飼料対策推進事業

牛飼料の製造、販売業者及び畜産経営者において牛用飼料を採取し、牛由来タンパク質を検査することにより、飼料安全法の遵守状況を確認した。牛飼養農家から15件の飼料を採取・検査し、すべて陰性であった。

3) 畜産バイオマス利活用推進事業

豚ふん堆肥に、地域資源である鶏ふん焼却灰を添加した成分強化豚ふん堆肥ペレットの窒素成分について、土壌施用後の推移を調査した。バラ堆

肥に比べ、ペレット堆肥は堆肥由来の窒素利用は施用後 60 日で約 8%ほど緩効であるが、窒素を肥料として活用できると考えられる。

#### 4) 飼料作物優良品種選定調査

トウモロコシ 3 品種、イタリアンライグラス 3 品種の比較試験を行った。トウモロコシの乾物収量は、「KD641」「TX1334」が多収の傾向であった。

イタリアンライグラスの乾物収量では「テティラ」が他品種と比べて多収の傾向であった。

## 共同研究

担当	課題名	相手方	研究期間	研究内容
養鶏	鶏舎の衛生環境を改善するAIロボットの開発	徳島大学 日本フネン（株）	R5～R6	肉用鶏の平飼鶏舎において、有害微生物等の増殖を抑え、鶏を健全に飼育し、生産性の向上を図るため、殺菌効果のあるUV-LEDを装備した自律走行型ロボットを開発するとともに、その効果を検証する。
飼料	子実とうもろこしの安定多収生産技術の開発	農研機構ほか 11機関	R4～R6	「みどりの食料システム戦略」の目標である化学肥料使用量30%削減の条件でも飼料用トウモロコシの子実収量の安定生産を可能とする堆肥主体の減化学肥料管理技術を明らかにする。

## Ⅱ 受賞・発表・その他

### 1 受賞

該当なし

### 2 学会等研究報告

学会誌等への掲載

所属	氏名	タイトル	掲載誌名
肉牛・酪農	田淵雅彦 可児宏章 吉田和輝 藤井侑里子 中川もも 岩田裕美	徳島県産和牛のオレイン酸および一価不飽和脂肪酸含有割合	徳島県立農林水産総合技術支援センター畜産研究課研究報告第24号（令和7年3月）：1～7
肉牛・酪農	吉田和輝 中川もも 岩田裕美 田淵雅彦	哺乳ロボットを活用した哺育牛育成管理技術の確立〔第2報〕	徳島県立農林水産総合技術支援センター畜産研究課研究報告第24号（令和7年3月）：8～11
肉牛・酪農	中川もも 可児宏章 田淵雅彦 藤井侑里子 吉田和輝	和牛産肉能力検定成績（現場後代検定法）と産子調査報告〔藍美津平号〕	徳島県立農林水産総合技術支援センター畜産研究課研究報告第24号（令和7年3月）：12～16
養豚	武田真城 飯塚悟 新居雅宏	低タンパク質飼料と消化性を高める資材を活用した環境負荷低減型養豚技術の開発（第1報）	徳島県立農林水産総合技術支援センター畜産研究課研究報告第24号（令和7年3月）：17～22
養鶏	竹原成海 小浦孝修 森奈津 松長辰司 富久章子	ブロイラー産肉能力に関する試験〔第49報〕	徳島県立農林水産総合技術支援センター畜産研究課研究報告第24号（令和7年3月）：23～26
養鶏	森奈津 竹原成海 小浦孝修 富久章子	過去13年間におけるブロイラー主要銘柄の産肉能力の推移	徳島県立農林水産総合技術支援センター畜産研究課研究報告第24号（令和7年3月）：27～41
養鶏	小浦孝修 森奈津 富久章子	阿波尾鶏の輸出を促進する肉用鶏食鳥処理における衛生管理技術の検討〔第3報〕	徳島県立農林水産総合技術支援センター畜産研究課研究報告第24号（令和7年3月）：42～45
飼料	白田英樹 吉田雅規 森本実奈子	飼料作物奨励品種選定試験〔第37報〕飼料用トウモロコシ・イタリアンライグラス	徳島県立農林水産総合技術支援センター畜産研究課研究報告第24号（令和7年3月）：46～49

### 学会・研究会等の講演発表

所属	氏名	発表課題名	学会・研究会名
肉牛・酪農	岩田裕美	直近12年の徳島県畜産研究課採胚成績について	令和6年度獣医学術四国地区大会
養豚	飯塚悟	大ヨークシャー種の繁殖能力改良SNPマーカーの検討	令和6年度獣医学術四国地区大会
養豚	新居雅宏	肉質の改良が可能となる1塩基多型の探索	第121回日本養豚学会
養豚	武田真城	低タンパク質飼料への酵素添加が子豚の発育成績に及ぼす影響	第122回日本養豚学会
肉牛・酪農	田淵雅彦	徳島県産黒毛和牛の脂肪酸割合について	畜産技術セミナー
肉牛・酪農	吉田和輝	哺乳ロボットを活用した哺育牛育成管理技術の確立	畜産技術セミナー
養豚	武田真城	低タンパク質飼料への酵素添加が子豚の発育成績に及ぼす影響	畜産技術セミナー
養鶏	小浦孝修	阿波尾鶏の輸出を促進する肉用鶏食鳥処理における衛生管理技術の開発	畜産技術セミナー
飼料	福井弘之	モミガラ長期保存実証	畜産技術セミナー
養豚	新居雅宏	阿波畜産ブランド「阿波とん豚」の開発と展開	令和6年度アグリサイエンスゾーンシンポジウム
養豚	飯塚悟	徳島県立農林水産総合技術支援センターでの養豚研究	令和6年度アグリサイエンスゾーンシンポジウム
養豚	新居雅宏	豚の肉質改良の指標となる1塩基多型の探索	令和6年度徳島県畜産関係業績発表会
飼料	白田英樹	サイレージの好氣的変敗防止技術の検討	令和6年度徳島県畜産関係業績発表会

### 3 発行資料

資料名	発行年月	所属・担当
研究報告 第24号	2025. 3	研究報告編集委員会

#### 4 雑誌等掲載

所 属	氏 名	内 容	年 月 日	掲載新聞・番組名
養鶏	森奈津	ウインドウレス鶏舎におけるUV-LEDを使ったブロイラー生産性向上への取り組み	2024. 5. 1	養鶏の友

#### 5 新聞掲載・テレビ出演等

所 属	氏 名	内 容	年 月 日	掲載新聞・番組名
飼料	白田英樹	サイレージの好気的変敗防止技術	2024. 4	CATV
肉牛・酪農	藤井侑里子	乳牛の斑紋の鮮明さと血液性状および乳成分値との関連性について	2024. 11	CATV
養鶏	森奈津	UV-LEDを使ったブロイラー生産性向上	2024. 12	CATV

#### 6 講演等

該当無し

#### 7 セミナー等開催実績

所 属	氏 名	内 容	受講人数	年 月 日
肉牛・酪農	可児宏章	和牛研修会	39人	2024. 3. 11

#### 8 派遣研修等

所 属	氏 名	内 容	年 月 日	研 修 先
飼料	福井弘之	中四国酪農大学校特別講義	2024. 11. 7～ 11. 8	中四国酪農大学校

#### 9 研修生の受け入れ

西部家畜保健衛生所職員 2024. 6月～8月の間 (5日)

#### 10 施設見学者数

該当なし

#### 11 その他 (特許, 種苗登録申請等)

該当なし